

令和3年度2学期終業式 校長式辞（令和3年12月24日 リモート）

今日で令和3年度の2学期が終了します。9月からのこの4か月間、コロナ禍は継続しています。特に9月は県立高校だけで30人以上の陽性者が発生しています。その後落ち着いてきており、昨日の岡山県感染症対策本部会議では、感染状況の新指標を、5段階の下から2番目のレベル1にしています。しかし、対応はこれまでどおりの対策レベル1の取組が必要とされており、これまでどおりの基本的な感染防止対策が継続されます。特にこれから本格的に大学入試に向かう3年生のことを考えれば、対策を蔑ろにすることは許されません。

このような厳しい状況の中で、この4か月間、一人ひとりの在り様は違いますが、皆さんの人間力も学力も必ず成長していると思います。

ここでは、10月に行われた中学校3年生対象の朝日高校学校説明会の校長あいさつで話しをした内容を紹介します。

私は、高等学校の役割は、生徒一人ひとりの、人間力と学力と、個性を最大限伸ばすことにあると考えています。このことを実現するために、本校の教育指導には二つのものがが必要です。一つは、「強さ」であり、もう一つは、「柔軟さ・多様性」です。前者を「自主自律」と、後者を「自重互敬」と表現することができるかもしれません。

本校は、これまで強さを強調するメッセージを前面に出すことが多かった

ように思います。このことは、今の時代の流れに反することになるのかも
しれません。

最近の新聞の投書欄に掲載された塾経営の方の意見を紹介します。近年の
子供の様子について、「難しい問題や困難だと思われる課題からは極力逃れ
ようとする傾向が強まっていること。もう少し頑張ってみようとはしないで、
すぐに諦めてしまう子が多くなった。「もう無理」が口癖になっている子も
いる。これでは個々の伸びる力も伸ばすことができないのではないかと懸念
している。」

本校の教育指導は、このような風潮にまったく反するところもあります。
生徒には限界までどころか、限界を超えての努力を求める面もあります。
しかし、その指導の背景には、大学入試をゴールとするのではなく、大学で、
大学の向こう側の社会で、自分のため、他人のため、社会のために貢献し、
生き抜く、人間力、学力の基礎をこの3年間で獲得してほしいという想いが
あります。

また、強さとともに柔軟さ・多様性も併せ持っている学校です。「自重互
敬」は「自分自身を大切にすること」に繋がるものであり、皆さん一人ひと
りが今ここにいること自体が奇跡であり、かけがえのない大切なことであ
ることを前提としています。その意味で柔軟さ・多様性を大切にしていま
す。

例えば、勉強することだけを求めている学校ではありません。部活動や生徒会活動、学校行事、クラスの楽しい活動等高校生としての価値ある様々な体験を大切にする学校です。友人も切磋琢磨するだけの存在ではなく、「ほっと」しあえる存在でもあります。

また、先生は、生徒に強い意志と高い志を求めますが、一方では、朝日の生徒が苦手な躓きやすい教科書の例題解説動画をオンライン上にアップしています。希望者が集う土曜活用講座では、ハイレベル講座も基礎的な講座も開設しています。また、質問受付時間を設定して生徒の弱点克服や得意を更に伸ばすことを応援しています。放課後質問に来た生徒には、とことん付き合い一緒に考えています。朝日の生徒一人ひとりを成長させることに一生懸命です。

この説明会に参加している皆さんが、来年度この朝日高校で「記憶に残る」高校生活をスタートすることを楽しみにしています。

現在朝日高校の生徒である皆さんは、どのような「記憶」を刻んでいますか。我々教職員は、しっかりと応援できているでしょうか。本当に短い冬休みですが、この間の一人ひとりの在り様での、一人ひとり成長を期待しています。みんな揃って1月11日の始業式に会いましょう。

(岡山県立岡山朝日高等学校 校長 竹田 義宣)

